

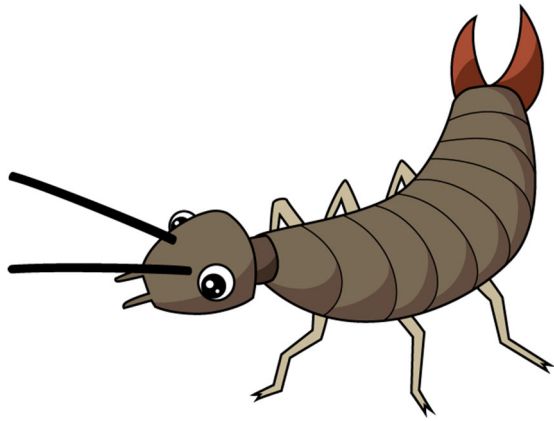
牧師のコラム

「一寸の虫にも五分の魂」

仁井田義政 牧師

今月は早三月である。三月という
と、寒い冬が過ぎ、暖かくなり始め、
冬ごもりしていた虫たちが、春が来た
ことを知り、出てくるという啓蟄(けい
ちつ)の日である。それが三月六日頃を
指す言葉なのである。虫が出る季節と
聞くと、鳥肌が立ってぞっとする人も
多いことであろう。しかし日本には
「一寸の虫も五分の魂」と言う諺があ
る。一寸とは、大体三センチの大きさ
である。五分とはその半分くらいの大
きさを表わしている。それは、どんな
に小さな虫にも、生きているものには
それ相応の命があるのだから、粗末に
扱ってはならないという意味である。
これは虫に対する譬えだけではなく、
人間にも当てはめられて用いられる言
葉でもある。「どんなに小さな人で
も、それ相応の誇りやプライドがある
のだから軽く扱ってはならないよ」と
いう意味である。さて、本来の虫の話

だが、昨年の春頃に稲垣栄洋先生(農
学博士)の書いた「生き物の死にさ
ま」という本を読んだ。その本の中
には、様々な生き物の死の事が書かれて
いるのだが、その中のハサミムシの
一に特に魅了された。ハサミ
ムシと言えば、ゴミ捨て場のような所
の石や板をひっくり返せば、どこで
も見つけることができる虫である。い
きなりひっくり返されて驚いたハサミ
ムシの
中に
は、尻
につい
ている
ハサミ
を立て
て何百
倍も大
きな人
間にさ
え、向
かって
くるよ
うな勇敢さが備わっているものもいる
のである。そのようなハサミムシは大



抵がメスであり、その近くには卵が産
みつけられていることが多い。つまり
子を守るためには、どんな大きなもの
にでも立ち向かってくるのである。ハ
サミムシは冬の終わりから春にかけて
卵を産む。そうして卵がかえる約四十
日間、決してその場を動かさず卵の
世話をして過ごすのだという。卵がか
えたらそれで母親の仕事が終わるわ
けではない。実は今まで以上に、想像
を絶する働きが待っている。ハサミム
シは、小さな昆虫などを捕食して生き
る肉食である。しかし生まれたばかり
の幼虫はその餌が獲れない。お腹を空
かした幼虫は、母親にすがりついてい
くのである。それは甘えるためではな
く、食べるためである。母親は子供た
ちが母親の体を食べるのに対して、逃
げるようなことはしない。むしろ子供
たちが自分の体を食べやすいように、
柔らかい腹の部分を差し出すのであ
る。それを子供たちは貪り食うのであ
る。そうしなければ、自分の生んだ子
供たちが餓死してしまう。子供たちが
餓死してしまうような事があれば、自
分が生きた意味も、卵を産んで守って

きた日々の努力も意味がなくなってしまう。そういう中でも、人間が石や板をはいだために子供たちの命に危険が迫っていると感じると、母親は残った力を振り絞って、人間にさえハサミを振りかざして攻撃してくるのである。やがて母親は、子供たちに食い尽くされて命を失ってしまう。しかしその命は、子供たちに受け継がれて、さらにその子供たちがやがて生む子どもたちへと、同じように受け継がれていくのである。春たけなわとなったころ、母親の硬くて食べられなかったところだけを残して、子供たちはゴミの中の石や板切れの下から這い出して、広い世界へと旅立っていくのである。子に自分の体を食べられていく時、母親はどんな気持ちなのだろうか。どんな気持ちで自分の柔らかい腹を、子供たちが食べやすいように向けるのだろうか。そこには、ハサミムシとしての生涯の悔いも一抹の不安すらなく、子供たちに身を捧げるハサミムシの母親としての満足があるのではないだろうか。

ハサミムシの一生をこの本で読みながら、イエス様が弟子たちに言われた

「取って食べなさい。これは私のからだです。・・・みな、この杯から飲みなさい。これは私の契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。」(マタイ二六章二六節、二七節)との言葉が思い出された。あっぱれハサミムシ。「一寸の虫にも五分(半分)の魂」どころではない。子供のために自分の全てを捧げきる、神の愛にも似た愛が、小さなハサミムシの中にあつたのだ。虫と言えども、これで闇雲に毛嫌いしたり、殺したり等できなくなる人が出てくればと切に思うのである。

■教会会議

2月5日の午後、今年度の教会会議が行われました。

そしてその翌週から各部会で今年の活動について話し合いが始まり、様々な活動再開に向けて準備が始まっています。今号・次号では、各部の部長からのメッセージを掲載させていただきます。



■壮年部

壮年部の会議が久しぶりに開催され、コロナが落ち着きつつある今年度、どのような活動が出来るか、これまでの活動を振り返りつつ話し合いとなりました。

具体的な活動としては月ごとの教会周辺の清掃と終了後の祈りの時間を再開します。

その他の計画は残念ながら現実な見通しが見えない現状から、状況を見ながらの活動とすることとしました。

仁井田牧師が他教会等へご奉仕に行かれる際の同行は控えて祈りお支えすることとしました。

また、各礼拝の出席者がほぼ固定されており交わりが難しくなっています。その中でも機会を見つけて言葉を交わし、求道中の方を含め壮年の結びつきを深めていきたいと思えます。

(部長 西山兄)

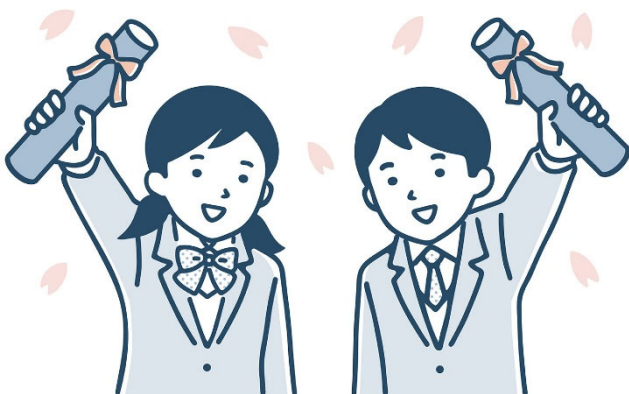


■青年部

先日、コロナ禍を経て3年ぶりの青年部会を開催しました。約2年以上がWeb礼拝でほぼイベントらしい事も出来なかったため、顔を突き合わせて話す事自体がもはや新鮮。

青年部は幅広い年齢層で構成されていますが、3年という時間の影響の受け方は様々ですね。私を含む30代以上は(良い意味で!)見た目も変わらず、物事の変化に対してどっしり構えている印象です。一方の10代・20代は3年の影響が大きいなど感じます。

3年あつたら中学生は高校生に、高校生は大学生になり、もはや姿かたちが違います!3年前まだまだ幼さがあつた学生たちがみんなお兄さん、お姉さんになっている...!3年前は子供らしく人懐こい部分があつたのに、久しぶりに会つたら思春期モード発動でちよつと社交辞令を覚えていたり(笑) 毎週会っていたらこのような変化は感じられなかったかもしれないので、ポジティブにこの変化は楽しんで見ていきたいと思えます。



さて、今年の青年部の活動についてです。

部会は開催出来たとは言え、

未だに新型コロナウイルスが《2類》扱いの現状では今まで行っていたような賛美集いや外出をしてのイベントは

まだまだ自粛ムード。交流するにも

感染が気になって安心して集まることすら難しいのはもどかしいですね。

なので、大した企画は立てられていません。

ただ、学生はどんどん成長し、青年部へも新たにメンバーが増えていく時の流れは止められない（青年部は中学生以上になったら参加）ですし、そのメンバーの歓迎はしっかり行いたい。なので、3月下旬に新メンバーとの交流も兼ねたボードゲーム大会を日曜日中に行う予定です。まずは内部での交流機会をしっかりと設けて、オンライン中心だった関係から横の繋がりを強めていきたいと思います。その上で、今年の後半は他にもイベント考えられる状況になっている事を期待したい所。

大人の雰囲気をもとに始めたメンバーが増えた青年部。今後イベント解禁に合わせて様々なタラントを発揮していつてくれる事でしょう。兄弟姉妹の活躍に乞うご期待ください！

（部長 熊谷兄）

■祈禱部

今回、12名の出席者により部会が行われましたので報告いたします。

🌸 昨年の活動報告

- ① 東北大震災復興祈禱会
各自の自宅で祈りました。また、YouTubeにて東北の復興祈禱会に参加しました。
- ② 祈りメール
緊急のお祈りはメールで配信し、各自でお祈りしました。

🌸 今年の活動報告

- ① 祈禱奨励日
4月から毎月の11日を祈禱奨励日として、それぞれが都合の良い時間にご堂に来てお祈りをする事にしました。

② 大震災復興祈禱会

今年も3月11日に復興のためにお祈りをします。

③ プレイヤージュオーキング

④ 聖霊待望会
日程は調整後にお知らせします。

⑤ 祈禱会

今年も祈禱会が再開されますのでできるだけ参加できるようにと準備をしていきます。



祈禱会は水曜の夜7時半からです。再開の日には別途お知らせします。祈禱部以外の方もぜひ、ご参加ください。お待ちしております。

（部長 関口姉）

■広報伝道部

2月19日(日)お昼に、広報伝道部会がありウェブを含む7名が集まりました。

他の部と同じく、この3年間は広報伝道部としての活動が難しく、毎月発行していた教会新聞・ウインディニュースもほとんど発行できていませんでした。振り返ってみると直近の発行は

□2022年12月 年末特別号

□2022年1月 新年号

□2021年3月 2・3月合併号

という感じで年に数回程度。ひえ〜

これは牧師先生から

「そろそろ新聞出してくれない？」と何度も言われるわけだ…!

ただ、礼拝ができなかった期間はもちろん、礼拝が再開されても、今までのようにイベントがあるわけではないので、新聞の中身をどうしよう?どなたかにお証をお願いしようかなと思っている間に3年が経ってしまっただけでした。エヘヘ:(笑ってごまかす)

さて、少しずつみんなで集まったり地下室でのパソコン作業もしたりすることができるとなってきたので、今年は活動をしっかりとやっていきたいと思って部会でみ

んなと話したところ、メンバーも同じように考えていてくれて、今年は頑張っていこう!となりました。活動としては、

① 取材旅行:今年は部の活動とはせず、個々で行ったところなどあれば新聞で紹介していく。

② SNS:現在、フェイスブックのアカウントがあるので、イベントは教会のホームページとフェイスブックに掲載をしていく。

③ ウインディニュース:毎月ではなく隔月などイベントの再開度合に応じながら発行をしていく。

またメンバーにもそれぞれ仕事や家庭の事情もありますので、無理のない範囲でできることをやっていこうということになりました。

この3年間の間に、教会新聞に関しては、礼拝や週報以外に教会の活動を知る貴重なツールだと改めて痛感しましたので、できるだけ多くの情報をたくさんの人にお知らせできるように今年度も元気に活動していきます!

♡部員募集中♡

(部長 遠藤姉)

■日曜学校部(ウインディキッズ)

日曜学校部の報告をします。

日曜学校は、元々は第一礼拝と第二礼拝の間の時間でしたが、現在コロナの影響で大人の礼拝時間が変わっているため、昨年11月から第二礼拝中に二階で実施しています。

昨年、再開にあたり、子ども達が集まって密になってしまったことなどを懸念していましたが、教会からウイルス除去の空気清浄機を購入してもらったり、子どもたちの体調チェックやスタッフを最少人数にするなど様々な工夫をしながら幸い問題なくこの3か月を過ごすことができました。

再開時は久しぶりの日曜学校ということ、子どもたちが前のように来られるかと心配していましたが、みんな成長して少しお兄さん・お姉さんになって元気に戻ってきてくれました。さらに、礼拝の裏でやっていることで、今までの時間帯ではウインディキッズに参加できなかった子どもも来ることができるようになったこともあり、現在は幅広い年齢の子ども達が集まっています。感謝です。

さて日曜学校の今年の活動は、

🐱 毎週日曜のウインディキッズ

🐱 子ども達の奉仕ができる機会作り

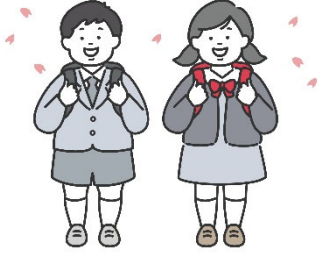
🐱 夏のデイキャンプ

を考えています。

以前と同じように、楽しく子どもたちと過ごしながらい信仰の成長を見守っていきけるようにと思っっています。先ほども書いた通り現在は参加者の年齢の幅が広いので、それぞれの年齢に合わせたフォローをしておく必要があります。そのためには、教師・スタッフも十分準備し、祈りながら進めていくことが大切だと思っっています。

以前のような会堂で大勢の子どもたちとゲームをしたり、外で軽食をしたりすることはまだまだ難しいかもしれませんが、できることを模索しながら前進していきま

(部長 大橋兄)



■社会奉仕部・デボーション部

月日が経つのが、本当に早くありません。

多分、まばたきの、一瞬一瞬の目を閉じた時に、眠りに落ち時間の経過を記憶する事が出来なくなっている為、老化？現象の積み重ねが、感覚として誤認識させられているものと思っています。

そして今日は、2月11日建国記念日である。我が国の建国を思う時、その歴史の古さ深さを、どれだけ認識して現代の生活に生かしているのか、ここでも誤認識の中に居るのではないだろうか。

最近では、世界史で習った世界4大文明より遙か前より、縄文文明は存在し文字の未開発の文明であった為、詳細が分からないままに発見が遅れ認識されぬままになっていた事が判明してきつつある様だ。

その中心は、青森県当たりであり、その一つが山内丸山遺跡として知られるところとなっており、1万年もの長い月日を、平和な生活として営んでいた様である。

そんな中で、400年前にキリスト教が伝来してきたのだ。

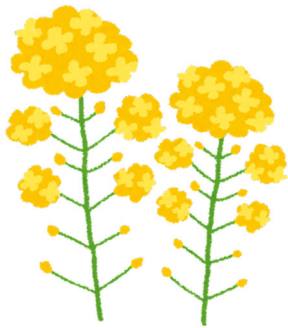
それも、結果的に布教目的というより、先進国の覇権闘争による国家の利権獲得の戦

いの中で。

我が国も、その歴史に飲み込まれ、敗戦という結果に繋がっている。その歴史の中で、私の父が終戦後に、一人の志願兵の本国への帰還がはたされ、舞鶴で待つ母と、奇跡的な再会がはたされ、私と弟の誕生に繋がった様である。

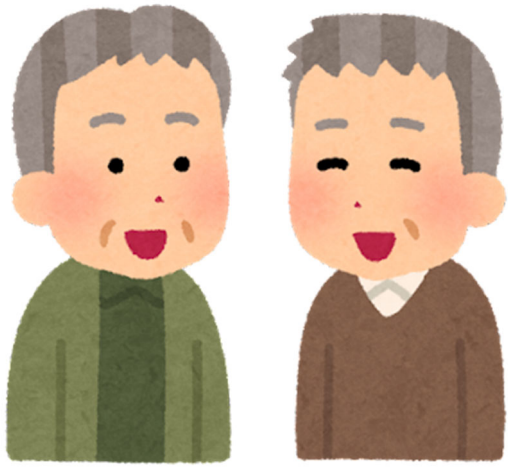
更にそこから33年、キリストがゴルゴダの丘の上で、私達・私のために罪を背負われて死んでくださった史実を知り、罪が許された経緯を知り、キリストの受難と同じ歳となった者として、洗礼を授かる決断をさせて頂いたのである。罪許され可能性のある者として、神の導く道を歩めることとなった事に感謝するばかりである。

更にそれから41年、奇跡の導きの人生の中で、教会に建ちあげたデボーション部・社会奉仕部は活動を続け、今日を迎えている。



ここ3年は、コロナに翻弄されたもの

の、活動は続けており、特に社会奉仕部のメイン行事として月に一度のCafe開催は一時休んだものの、続けてきた。お陰で『緑地ケアカフェ』は、多摩区の市民活動のコミュニティCafeとして、生田緑地公園の近隣にあるCafeの立地を生かし、知名度も上がり市民館のコミュニティCafeの構築講座にも招かれて、2度ほど実施運営されているCafeとして講演するところまでに成長してきている。



昨年、2022年11月2日には、緑地にある杵形山の展望台から、富士山山頂に沈む夕陽…『ダイヤモンド富士を見る会』を企画する事も出来た。

結果、12人の人々が参加され、なんと私も初めて、展望台から富士山山頂に沈む夕陽、綺麗なダイヤモンド富士を見る事ができた。

次の月の12月になって、イベント参加でダイヤモンド富士を堪能して帰った人々に、今年は幸運にも25日は日曜日でクリスマス当日と重なるので、クリスマスの日に本当の礼拝を教会で体験出来ますよ、来ませんか？

誰でも参列する事ができますよ。と言ってみると、『行きたい』との返事が返ってきました。

『友達も、一緒にいいですか？』と言うので、一緒にどうぞと案内した。

するとその結果、25日の第一礼拝に、4人が人生初めてのクリスマス礼拝に出席することが出来、イエス様の招きの言葉を聞く経験を手にすることになったのだ。

一人は、四国から飛行機で、もう一人は大阪から新幹線で前乗りされ、私より早く

当日教会に、

東京の2人の

友人と共に到着しておられた。何年も未

信者を教会の

礼拝に招き、

参列してもら

いたいの思

いは抱いていたものの、実現的に不可能だ

と思ひ、難しい事としていた事を知る事にな

った。

25日がクリスマス当日に重なっただけで、誰でも本当の礼拝に参加したいと思っ

ており、そのことに気づいていない者とな

っている、自分に気付かされる一瞬とな

った。

私達クリスマスチャンは、礼拝を大切なもの

とし、権威あるものとしてきた。

伝道という器を作り、崇高な行為に閉じ込

めてこなかったか。改めて多くの人が素直

に求めている時でさえも、その思いを叶え

てこなかった様にも思える出来事を、神が

用意され見せて解決して下さったのだ。

最大の神様からのクリスマスプレゼント

を、頂く事となった。



明けて2023年このプレゼント・経験を踏まえ、社会奉仕部はこれまで以上に、『社会に安全で安心に集まれる場を提供する。』デボーション部は神の声を各役員が自ら、『神様からの直接の言葉を聞き、導きに従って行動する。』を掲げて、前進していききたいとの決意を新たにしている。

最後に、両部共に部員を募集している事もお伝えしたい。

この奇跡とも思えるクリスマスプレゼントを、実際に部員となって体験する事をお勧めし、終わりとしたい。一緒に主の導きの中を歩みませんか？

(部長 中川 彰)

.....

■お知らせ

婦人部、ハンドベル部、ゴスペル部、集會企画部の部會報告は次号で掲載予定です。どうぞお楽しみに！

■お証エッセイ

前号で「この1年を振り返って」という題で勝彦兄達に記事を書いていただきました。自分のことを振り返って1つだけ忘れられない出来事がありましたのでお証させていただきます。以前からこのウインディニュースの編集後記などにたびたび登場させていた実家にいる犬のまりんが、昨年6月高齢と病気で天国に行きました。

まりんは、生後2か月の時に私が千葉のブリーダーさんから購入した犬で、初日は私のマンションに、2日目は日曜日だったので教会に連れてきてそのあと静岡の実家に連れて行きました。まりんは、教会のみなさんにかわいがってもらい、たくさん遊んでもらってとても楽しそうでした。

その後、ブリーダーさんの「この子はあんまり体が大きくならない子だから」という言葉を大きく裏切り、最終的に立派すぎる筋肉と脂肪を持つ35キロのどっかいラブラドルになりました。

ここ数年、脂肪腫などで上手に歩けなくなってきたので、少しでも移動が楽になればと犬用のカートを購入し散歩に連れていくようになりました。カートに乗っての散歩が気に入ったのか、その日から雨の日も

風の日も時間になるとカートを乗る場所に行き、散歩の要求が始まりました。

そのカートが1年ほどで壊れたと母から連絡がきたのが昨年春。その頃まりんは発作のような症状がしょっちゅう出て、家族ももう長くはないだろうと思っていました。それでも、もしまだ散歩に行きたいなら連れてってあげたいと思い、新しいカートを購入。6月、新しいカートでのお散歩はとっても楽しかったようで顔を上げ耳をパタパタさせながら、外のおいを一生懸命嗅いでいました。その翌日急激に体調を崩してしまい、あつという間に天国に行きました。お別れは本当に悲しいものだけれども、この子が来てくれて私や家族の人生がとても豊かであたたかいものになったと思います。また、私がまりんに対して「何ができなくても、一緒に生きていくだけで嬉しい」と思うたびに、「神様も私のことをそういう風に思ってくれているのかな」と嬉しさと神様への感謝の気持ちで溢れました。弱いものを愛する気持ち、それ以外にもたくさんのことを教えてくれたまりん、ありがとう。

(遠藤)



■ 2月～3月の予定

グレーの予定は終了しています

2月5日（日） 9：00～第一礼拝・11：00～第二礼拝/ウインディキッズ
13：00～教会会議

2月12日（日） 9：00～第一礼拝・11：00～第二礼拝/ウインディキッズ
12：00～壮年部会・婦人部会・青年部会
終了後 祈禱部会

2月19日（日） 9：00～第一礼拝・11：00～第二礼拝/ウインディキッズ
12：00～広報伝道部会
終了後 日曜学校部会

2月26日（日） 9：00～第一礼拝・11：00～第二礼拝/ウインディキッズ
12：00～ハンドベル部会・ゴスペル部会
終了後 集会企画部会

3月5日（日） 9：00～第一礼拝・11：00～第二礼拝/ウインディキッズ
14：00～第三礼拝

👤 3/5以降、毎週日曜は

第一礼拝・第二礼拝・ウインディキッズ、第三礼拝があります

3月21日（火・祝）南西教区教会教育研修会（篠原教会）

4月9日（日）イースター礼拝

👉 詳細は週報等でお知らせいたします。



■編集後記

前号から早くも今春号をお届けする時期となりましたが、いかがでしたでしょうか。

実は一月にとっても興味深いニュースがありました。

「インド、すでに人口世界一か？約六十年ぶり減少に転じた中国が首位陥落」

みなさんは、この両国の人口をご存じでしょうか。公式発表では、インド十四億千七百万人。中国十四億千二百万人。とのこと。どちらも日本の昨年人口の十一倍！以上です。

もう何か次元が違い過ぎですが、実はそれ以上にもっと次元が違う世界一の人口があるのです。言わずもがな、クリスチャン人口。

ほとんどの統計で、二十二〜二十三億人台とされています。もちろん世界一です。国の言語は「聖書」、つまり神の言葉。クリスチャン(世界人口の三分の一以上)やそうでない人も含めて、これほど確実に普及した言語は類例ないことにいまさらながら気が付きました。

ちなみに世界で最も使われているのは英語。使用人口十五億以上といわれていますが、クリスチャンはすでに英語以上に力を持つ実用的な言葉が分かると考えると、外

国語が判らなくても別にいいか？と思えてきます。(本当？)

「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。」(ヘブル四章十二節)

(桜井聡)



ウインディチャペル 溝の口キリスト教会
〒213-0033
神奈川県川崎市高津区下作延 7-11-12
TEL・FAX 044-811-3235
E-mail mcc@windychapel.com
ホームページ <http://windychapel.com>